

富山県指定史跡 木舟城跡



1543年(1784)
石井太郎光弘、木舟城を築く
1589年(1581)7月
越前長浜で石黒成綱と家康が織田方に討たれる
1613年(1645)11月
天正大地震により前田利勝夫妻没命
1618年(1649)
前田利秀、木舟城を築城























水舟城跡について

この城は青永三年（一八四四年）石黒太郎光弘の家
城とほら秋のの枝、上杉氏、前田氏の二城と
り城下町も発達したが、天正十三年（一五八五年）十一
月大坂を以てより崩壊した。

当時の水舟城は、水丸が東西六本間、南北一八本間、
南北七十五間、二の丸東西四十五間、南北五十間、三の丸
東西三十間、南北六十間、四の丸東西二十間、南北三十間、
十五間の延があり、深沼の中の池といつた要害の地て
あつたやうである。

現在その跡とが田畑となつておたりし、とも高
い所で四ノ丸の小丘、水丸とみうねるこころは一
五ノ丸と、是の池をどめていりて過ぎる。

跡あたる水舟城築城八〇年、前清四〇年の舟
録の年であり、これを記念し、石碑を建立して、水と
舟の名を留め、文化財として、価値と高め保護に
資するものである。

昭和四十年十月、県指定史跡とす。

昭和六十二年夏、建立。

福岡町教育委員会
水舟城跡保存会

















木舟城の姿について

今日見られる木舟城跡は、木舟城の主郭（本丸）の一部が地上に残ったもので、現在の史跡地の西の水田も含めて城主の住む主郭が存在したものと考えられます。

史跡地北側の市道には堀があり、その北にあった北郭とは土橋で繋がっていました。史跡地の南側の民家付近にも堀で隔てられた南郭が存在したと推定されます。

ここ「貴布禰神社」は、「古城中有明神社」との記録があることから、木舟城の郭内に祀られた城の鎮守社であったと思われる。主郭との間は堀で隔てられ、神社の東側には木舟川（前川）と呼ばれた川が流れていました。

この様に、木舟城は、東西を川に挟まれた大きな沼地に浮かぶ要害でしたが、軟弱な地形であったため、天正十三年十一月（一五八六年一月）の天正大地震で城主前田秀経夫妻が落命するなどの大きな被害を受けました。秀経の子前田利秀は復讐を試みたようですが、翌年、今石動城に居城を移し木舟城は廃城となりました。

富山県教育委員会
高岡市教育委員会



























